

未来の日本を創る
農業担い人
 THE FUTURE of JAPAN CREATE



PROFILE

かとう こうき
 加藤 光樹さん(22歳)

弥富市綱浦町

農業担い人

若い力で産地を
盛り上げたい

加藤さんは今年の6月にレンコン農家として新規就農しました。現在は、備中・ロータスホワイ ト・金澄を1.2ヘクタールのレンコン田で栽培しています。

木曾岬でなばな農家を営む祖父の姿を幼い頃から見てきた加藤さんは、自然と農業に興味を抱くようになりました。中学卒業後は地元高校の農業科に進学。米や園芸・畜産など様々な農畜産物について学んだ加藤さんでしたが、その中でもとりわけレンコン栽培に魅力を感じたそうです。理由を伺うと、「他の品目は生産の機械化が進む中で、レンコンは一つ一つの工程のほとんどが手作業です。そこに『生産者としてのやりがい』を感じました。また、レンコン栽培には教科書が存在しないので、今後もっと発展していく可能性を秘めた作物だと思ったことも理由の一つです」と話してくださいました。

高校卒業後は県立農業大学校に進学する予定でしたが、願書を提出する直前に、レンコンをはじめとする農産物加工食品の製造・販売を行う地元の清水食品株式会社が求人を出していることを知り、「現場でレンコンについて学びたい」と志望して入社。今年の5月まで4年間、仕事の中でレンコン栽培に携ってきました。入社前の面接から社長には「数年で独立したい」と想いを伝えていた加藤さんを、社長は温かく応援して

くれたそうです。また、新規就農にあたっては「JAの方々には、農地や農機具のことから栽培方法に至るまで多くの相談に乗ってもらい、とても助かりました」と話す加藤さん。先に独立した先輩や他のレンコン農家の方々からも、「わからないことがあったら何でも相談に乗るから」と、声をかけてもらっているそうです。「周りの支えがあったからこそ、今の自分があります」と、加藤さんは独立にあたり、周囲の方々への感謝の想いを語ってくださいました。

「農業は発見と気づきの連続」と話す加藤さんは今後について、「今は不安よりも楽しみなかないです」と力強く話してください、続けて「作業の効率化を進め、面積あたりの収量を増やし、安定的に出荷できる体制を整えたいです。その為にもまずは近い将来、自分の作業場を建てることを目標の一つにしています」と抱負について語ってくださいました。また、加藤さんは若い学生さんに向けて「どんどん農業に入ってきてほしい」とエールを送ります。

最後に消費者の方々に向けて、「愛西市は全国的にも有名なレンコンの産地ですが、一般の方々にはあまり認知していただけていません。レンコンは食感が良く、食味に癖がないため、どんな料理にも合います。生産者として産地を盛り上げていくためにも、今後は周りの方々と協力して消費者の皆さんに新しい食べ方を発信していかなくてはならないと考えています。ぜひ一度ご家庭で、いつものレシピの食材にプラスチックとしてレンコンを加えていただけると嬉しいですよ」と笑顔でメッセージをいただきました。

農業担い人